

多職種間連携に関する国際的な研究動向について (第2報)

村田憲章、松井由美子、桑原桂、山口智、真柄彰
新潟医療福祉大学 新潟連携教育研究センター運営委員会

【背景・目的】多職種間連携教育 (IPE: Interprofessional education) の発展は数多く存在する医療専門職が一丸となって将来の臨床現場でチーム医療を展開するために必要不可欠である。新潟医療福祉大学 (以下、本学) では、「チームアプローチ入門」、「連携基礎ゼミ」、「保健医療福祉連携学」、連携総合ゼミ」などが開講されている。さらに、「優れた QOL サポーター育成」を目指す IPE 教育の活動拠点として、「新潟連携教育研究センター(Niigata Research Center for Inter-professional Education : NIIGATA RECIPE)」が設置されている。

英国の CAIPE (Centre for Advancement of Interprofessional education) は IPE について“複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所でもに学び、お互いに学び合いながら、お互いのことを学ぶこと”と定義している¹⁾。また IPE の取り組みは各国のネットワークが存在し、情報共有がなされている。本研究では IPE に関連する海外の主要な論文を調査し、国際的な研究動向を明らかにすることを目的とした。

【方法】「Scopus」を用いて、2018年8月18日現在、「IPE」をキーワードとして検索を行った。検索モードは“論文タイトル、抄録、キーワード”とした。検索結果にて被引用数が多い順に並べ替えを行い、IPE に関連する文献の被引用数上位5位を割り出した。他分野の文献において「IPE」の略語が用いられているものは目視にて除外した。また、被引用数上位5位の文献の著者キーワードおよび索引キーワードから IPE に関連性の高いと考えられるものを抽出した。そのキーワードを再度キーワード検索することで IPE 関連の文献の量的調査をおこなった。

【結果】上位5件は Hammick らの報告²⁾(被引用数487)、Reeves らの報告³⁾(449)、同じく Reeves らの報告⁴⁾(324)、Oandasan らの報告⁵⁾(228)、Thistlethwaite の報告⁶⁾(192)で、いずれも Review article であった。昨年と比較し、Reeves らの報告の順位が逆転した。Hammick らの報告の引用数は昨年比52回増、Reeves らの報告は211回増、同じく Reeves らの報告は81回増、Oandasan らの報告は19回増、Thistlethwaite らの報告は44回増であった。

被引用数上位の文献から著者キーワードおよび索引キーワードの検索を行った。その結果、「Patient-centered care」、「Interprofessional education」、「Interprofessional teamwork」の3つが関連性の高いものと考えられた。

「Patient-centered care」のキーワードで検索された文献

数は19,638件で、分野別文献数の割合は Medicine 57.9%、Nursing 17.9%、Social Sciences 5.5%であった。

「Interprofessional education」で検索された文献数は2,845件で、Medicine 47.7%、Social sciences 24.4%、Nursing 13.2%であった。「Interprofessional teamwork」で検索された文献数は325件で、Medicine 49.2%、Social sciences 21.6%、Nursing 14.6%であった。

【考察】「IPE」をキーワードとして検索した被引用数上位5位の文献では、2位の Reeves らの review が引用数を伸ばした。本 Review は同医療従事者同士が個別に医療・福祉について学習する方法と、多職種間の医療従事者同士が学び合う方法を比較し、IPE 介入の有効性を評価することを目的とした報告である。この点は本邦においても明確な指針を基に明らかにすべきポイントであると考えられる。

抽出されたキーワード検索では、Medicine、Nursing、Social sciences の文献が上位を占めた。本学の IPE の集大成といえる「連携総合ゼミ」ではこれら3分野以外の学生も参加する機会が設けられている。幅広い専門分野について網羅的に着目することで、より新しい多職種間連携の可能性を見出せると考えられる。

【結論】IPE に関連する論文の被引用数上位5位までを再評価した。その結果、IPE に関連して国際的に着目されているポイントが浮き彫りとなった。今後も IPE の啓発および研究推進のために、原著論文並びに review を精読していく必要があると考えられた。

【文献】

- 1) CAIPE, home, <http://www.caipe.org.uk/>, 2018年8月18日.
- 2) Hammick M, Freeth D, Koppel I, et al.: A best evidence systematic review of interprofessional education: BEME Guide no.9, *Med Teach*, 29: 735-751, 2007.
- 3) Reeves S, Perrier L, Goldman J, et al.: Interprofessional education: effects on professional practice and healthcare outcomes (update), *Cochrane Database Syst Rev*, 3: CD002213, 2013.
- 4) Reeves S, Zwarenstein M, Goldman J, et al.: Interprofessional education: Effects on professional practice and health care outcomes, *Cochrane Database Syst Rev*, 1: CD002213, 2008.
- 5) Oandasan I, Reeves S, et al.: Key elements for interprofessional education. Part 1: The learner, the educator and the learning context, *J Interprof Care*, 19: 21-38, 2005.
- 6) Thistlethwaite J: Interprofessional education: A review of context, learning and the research agenda, *Med Educ*, 46: 58-70, 2012.